

# しつとこ資料A(近江神宮と園城寺 PW)

## 近江大津宮(おうみおおつのみや)

大津の宮は、齊明天皇の代、百済の救済に白村江の戦いに出向き、新羅・唐軍と戦ったが、反撃に合い敗北を期した。その後、天智天皇が即位し、唐軍の追撃を恐れ遷都したとともに、飛鳥に居る政治勢力の力を削ぐためとも言われるが、理由は定かでない。天智天皇が遷都を進めたが、大津遷都に批判が多く、天智天皇崩御の後、大海皇子が政権を取ると、元の飛鳥の浄御原に都を移した。その間ここに都があったのは、僅か5、6年のことである。

大津宮のあった場所は、発掘調査によって正殿柱跡が発掘され、大津市の西北(錦織一丁目)あたりと特定され、南北700m、東西400m程度の大阪で見た難波宮を小規模にした形だったようだ。



## 近江神宮

○旧社格は官幣大社。現在は神社本庁の別表神社で勅祭社でもある。1908年(明治41年)の大津市制施行10周年を契機として、天智天皇をゆかりの地である大津宮跡に祀ろうという運動が起こり、1938年(昭和13年)に昭和天皇の勅旨によって官幣大社「近江神宮」の創建が決定され、1940年(昭和15年)11月7日、鎮座する。

太平洋戦争後の1945年(昭和20年)12月15日、昭和天皇の勅旨により、同神宮は勅祭社になる。1948年(昭和23年)に神社本庁の別表神社に加えられる。



○日本で初めて水時計(漏刻ろうこく)を設置した天智天皇を祀る神社として、1941年(昭和16年)の時の記念日(6月10日)に第1回漏刻祭を開催、以降、例年行事となる。境内には各地の時計業者が日時計や漏刻などを寄進され、時計館宝物館に展示、更に、近江時計眼鏡宝飾専門学校が境内に併設している。

○小倉百人一首の一番歌が天智天皇の和歌。これにちなみ、競技かるたのチャンピオンを決める名人位・クイーン位決定戦が毎年1月に行われている。この他、高松宮記念杯歌かるた大会・高校選手権大会など開催されている。競技かるたを題材にした漫画・テレビアニメ・映画『ちはやふる』の舞台にもなる。

○歌碑・句碑として、天智天皇の百人一首の歌、柿本人麻呂・高市黒人(たけちのくろひと)の万葉歌碑、弘文天皇(大友皇子)の御製漢詩碑、芭蕉句碑、保田與重郎(やすだよじゅうろう)など多くの碑が立っている。



○皇室との関わり:1943年(昭和18年)、昭和天皇から御神宝として御太刀一振が寄進。1975年(昭和50年)、第26回全国植樹祭のために昭和天皇、香淳皇后が行幸。1994年、当時の明仁天皇と美智子皇后が参拝している。

## 皇子山古墳群

「皇子山」と称される独立丘陵(標高164メートル)に築造された古墳群。前方後方墳1基(1号墳)・円墳1基(2号墳)の計2基からなるが、他に、古墳が営造されていたと推測。2基の古墳域は、1974年(昭和49年)、「皇子山古墳」の名称で国の史跡に指定。現在は公園として整備・公開されている。

## 皇子が丘公園

皇子が丘公園は、昭和36年に開設。皇子山の麓にプールなど各種スポーツ施設(体育館・温水プール・テニスコート・運動広場)や交通公園や日本庭園・野外劇場などを備え、多目的に利用できる。桜の名所としても知られ、琵琶湖の眺望も良く、濃いピンクのハツミヨザクラで知られる。この桜は、大津市内で一番早く咲き、例年、3月中旬から下旬が見頃となる。ドラマ「科捜研の女 season24」でロケ地に使用された所。科捜研の女は、テレビ朝日で2024年7月3日に放送された。主演は沢口靖子の榊マリ子、助演に内藤剛志、風間トオルらが出演する科学捜査班を主軸にした警察ドラマ。被害者が倒れていた場所がここ皇子が丘公園と言う設定だった。

## 法明院(ほうみょういん)

園城寺(三井寺)北院にある子院で天台寺門宗の寺院。本尊は阿弥陀如来。慶長8年(1603年)に山中長俊が園城寺子院・多宝坊の住持の隠居所として、現・水観寺の南西に復興する。享保9年(1724年)9月、北院の現在地に移転。再興後は園城寺唯一の律院「園城之律院」となる。明和3年(1766年)、話し合いの末に京都北白川にあった聖護院門跡の隠居所・照高院から玄関と庫裏を貰い受け、もともとあった庫裏に付け加えて改築する。かつてこの周りに園城寺の他の子院が幾つかあったが、1873年(明治6年)陸軍が大部分を接收、新羅善神堂が残るだけとなった。

1945年(昭和20年)の太平洋戦争中にアメリカ軍の空襲を受け、庭に爆弾が落ち、玄関が損壊、円山応挙などの襖絵が10枚ほど損失する。

第9世順道敬徳(桜井敬徳)は町田久成、アーネスト・フェノロサ、ウィリアム・スタージス・ビゲロー、岡倉天心などと親交があり、彼らに戒を授けている。第10世融照敬円(園城寺長吏、円満院門跡、聖護院門跡)はフェノロサの妻メアリーに戒を授けている。アーネスト・フェノロサは英国で亡くなっているが、本人の希望があり分骨しここに墓を設けている。

## アーネスト・フェノロサ

父親はスペイン生まれの音楽家(晩年自殺)、兄とともにフリゲート艦の船上ピアニストとして渡米、結婚してマサチューセッツ州でアーネストが生まれる。アーネスト・フェノロサは地元の高校を卒業後、ハーバード大学で哲学、政治経済を学ぶ。先に来日していた動物学者エドワード・シルヴェスター・モースの紹介で1878年(明治11年、当時25歳)に来日し、東京大学で哲学、政治学、理財学(経済学)



■ アーネスト・フェノロサと法種寺門跡の救世観音菩薩 / wikipediaより引用





1月9日- 672年8月21日)に列せられているが、弘文の諡号は明治3年(1870年)に贈られたもので、歴代天皇に列せられたか否かは定かではない。古文書には、大友皇子と表記されることが多い様だ。

## 壬申の乱とその経過

ここで、天智天皇の弟、大海皇子(後の天武天皇)と天智天皇の第一子、弘文天皇との争いが壬申の乱であるが、この戦いを記した資料を以下に簡単に纏める。

•**660年代後半**、天智天皇は近江宮へ遷都。

•**671年11月**、第一子の**大友皇子**を太政大臣につけて後継とする。大海人皇子も大友皇子を皇太子として推挙し、自ら出家、吉野宮(奈良県吉野町)に下る。

•**672年1月7日**、山科にて天智天皇、46歳で崩御。24歳で大友皇子が跡を継ぐ。

•**672年7月24日**、大海人皇子は吉野を出立。名張に入り駅家を焼いたが、名張郡司は出兵を拒否。

▪、大海人皇子は美濃、伊勢、伊賀、熊野やその他の豪族の信頼を得て、伊賀に入る。ここでは阿拝郡司(伊賀市北部)兵約500が参戦。積殖(つみえ、伊賀市柘植)で長男の高市(たけち)皇子の軍と合流。さらに伊勢国の郡司が協力し兵が加わる。その後、美濃へ向かう。

▪、大海人皇子の指示で、多品治(おおのほんじ)が既に兵を起し、美濃の不破の道を封鎖。このため東海道、東山道の諸国から兵を動員可能となる。

•**672年7月31日**、美濃で、東国からの兵力を集めた後、大海人皇子は軍勢を二手にわけて大和と近江の二方面に出兵。

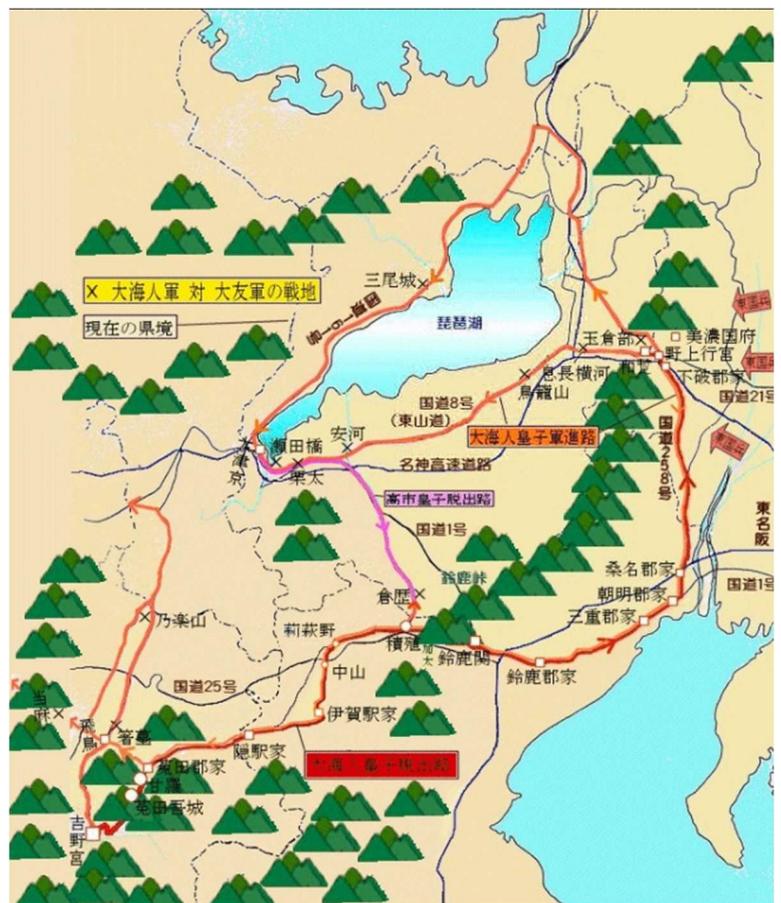
▪、近江朝廷の大友皇子側は、東国と吉備、筑紫(九州)に兵力動員を命じる使者を派遣。東国の使者は大海人皇子側の部隊に阻まれ、吉備と筑紫は外国に備える事を理由に出兵を拒否。大友皇子はあらかじめ使者の佐伯男に、断られた時は栗隈王を暗殺するよう命じていた。その為、近隣諸国から兵力を集め、近江朝廷の主力軍が不破に向けて進軍する。

▪、大和では近江朝が倭京(飛鳥の古い都)に兵を集めていたが、大伴吹負(おおとのふけい)が挙兵し、その部隊の指揮権を奪取。近江朝の軍と激戦を繰り広げる。ここでは近江朝方が優勢であり、吹負の軍は敗走するが、繰返し軍を再結集して反撃する。その後、紀阿閉麻呂(きのあへまろ)が指揮する美濃からの援軍が到着し、吹負の窮境を救う。

•**672年8月8日**、近江朝軍は美濃にも向かうも、指導部の足並みの乱れ進軍が滞る。大海人皇子方と区別するため近江方は合言葉を「金」と定める。村国男依(むらくにのおより)らに率いられた大海人皇子側の部隊は、息長の横河(おきながのおかわ)で戦闘となる。以後連戦連勝して箸陵(箸墓古墳)の戦いで勝利する。

•**8月20日**、瀬田橋の戦い(大津市唐橋町)で近江朝廷軍が大敗すると、翌日大友皇子が首を吊って自決、乱は収束す

•**673年2月**、大海人皇子は飛鳥浄御原宮を造って即位。近江朝廷が滅び、再び都は飛鳥(奈良県高市郡明日香村)



に移される事になった。論功行賞と秩序回復のため、新たな制度の構築、八色の姓の制定、冠位制度の改定など、強固な中央集権制を進めた。

## 園城寺

### 〈概要〉

- ・天台寺門宗の総本山の寺院。山号は長等山(ながらさん)。本尊は弥勒菩薩。開基(創立者)は大友与多王。観音堂は西国三十三所観音霊場の第14番札所で札所本尊は如意輪観世音菩薩である。
- ・近江八景の一つである「三井の晩鐘」でも知られる。なお一般には三井寺(みいでら)と呼ばれる。平安時代など日本古典文学では、何も注釈を付けず「寺」と書かれれば、この園城寺を指す。尚、延暦寺は「山」(比叡山)と呼ばれる。
- ・寺を代表する僧のことを他宗では「管長」「別当」などと呼ぶが、当寺では「長吏」(ちょうり)と呼ぶ。
- ・円珍によって天台別院として中興された当寺は、東大寺・興福寺・延暦寺とともに「本朝四箇大寺(ほんちょうしかたいじ)」の一つに数えられるようになる。

### 〈歴史〉

- ・7世紀、大友氏の氏寺として草創。9世紀、唐から帰国した留学僧円珍(天台寺門宗宗祖)によって再興され、平安時代以降、皇室、貴族、武家などの幅広い信仰を集めた。10世紀頃から比叡山延暦寺と対立抗争(山門寺門の争い)が激化、比叡山の宗徒によって園城寺が焼き討ちに遭う。近世、豊臣秀吉が寺領を没収し、廃寺同然となるが、その都度再興してきた。このため園城寺は「不死鳥の寺」と称されてもいる。
- ・当寺の起源については次のように伝承されている。天武天皇元年(672年)、壬申の乱のため大友皇子(弘文天皇)は25歳の若さで没した。そして大友皇子の子、与多王(よたのおおきみ)は、父の菩提のために当寺を建立した。或いは、当寺は大友村主家が創建したとも言われる。
- ・大友皇子と敵対関係にあった天武天皇だが、朱鳥元年(686年)当寺の建立を許可、「園城寺」の寺号を与えた。「園城」という寺号は、与多王が自らの「莊園城邑(しょうえんじょうい:領有した莊園のこと)」を投げ打って当寺を建立したため「園城」と名付けた。当時には創建時に遡る遺物はほとんど残っていない。しかし、金堂付近から、奈良時代前期、飛鳥時代の古瓦が出土しているため、創建の伝説はある程度の史実と見ることができる。
- ・平安時代には朝廷や貴族の尊崇を集め、中でも藤原道長、白河上皇らは深く帰依したことが知られている。これら有力者からの寄進等による莊園多数を支配下に置き、末寺も多くあり、信濃国善光寺(深田之莊)もまた末寺として記録に著れる。
- ・中世以降は源氏など武家の信仰も集めた。特に源氏は源頼義が園城寺に戦勝祈願をし、その三男の源義光が新羅善神堂の前で元服するなどし、歴代の尊崇も篤かった。
- ・天元4年(981年)頃、比叡山は円珍の門流と慈覚大師円仁の門流との2派に分裂、両者は対立し、100年余り抗争が続く。
- ・平家滅亡後、源頼朝は、元暦元年(1184年)から当寺に近江国横山莊および若狭国玉置莊を寄進、保護したため、復興が始まる。
- ・南北朝の内乱では北朝方で源氏の足利氏を支持、一方延暦寺は南朝方を支持したため伽藍が炎上。当時も延暦寺僧兵に襲われ、伽藍など焼く。
- ・信長・秀吉と良好な関係を維持していたが、秀吉から突如怒りを買ひ、殆どの仏像や伽藍など他寺へ移される。死期を悟った秀吉は当時を許し、高台院・秀頼・毛利などが寄進を進め、復興する。現在の園城寺の寺観は、ほぼこの頃に整えられたもの。
- ・明治維新後、1873年(明治6年)北院の大半となる20万平方メートルが陸軍に接收される。歩兵第9連隊司令部(現・大津商業高校)や練兵場(現・皇子山総合運動公園)となる。多くの子院が廃寺となり、新羅善神堂と法明院を残し北院

は廃絶した。

・1941年(昭和16年)天台宗山門派(現・天台宗)、天台宗寺門派(現・天台寺門宗)、天台宗盛門派(現・天台真盛宗)の天台三派が合同、新たな天台宗として発足する。しかし、太平洋戦争1946年(昭和21年)、分裂、天台宗寺門派は天台寺門宗として独立し総本山となった。

## 〈文化財〉

### (国宝)

国宝建築、園城寺新羅善神堂

国宝建築、園城寺金堂

国宝建築、勸学院客殿

国宝建築、光浄院客殿

不動明王像 金剛界曼荼羅の諸尊を表した白描図像の巻物。1巻は唐時代に制作され、円珍が法全から授かった。もう1巻の残欠本は11世紀平安時代に日本で写されたものである。

木造智証大師坐像(中尊大師) 毎年10月29日にのみ開扉される。円珍の肖像と共通する特徴を持つ。10世紀後半頃のものと考えられている。

木造智証大師坐像(御骨大師)

木造新羅明神坐像

智証大師関係文書典籍

### (重要文化財)

「閼伽井屋(あかいや)」 「三井寺」の名称の由来となった井戸

## 〈ドラマや映画のロケ地〉

ロケ地として多くのドラマ・映画の舞台になっている。調べて見ると全てかどうかわからないが、次の様なものが検索された。「石榴坂の仇討」・「銀二貫」・「妻はくノ一」・新春ドラマ「影武者徳川家康」・「利休にたずねよ」・「武士の献立」・「幕末高校生」・「鬼平犯科帳スペシャル」・ドラマ「大奥 ～誕生～」・大河ドラマ「平清盛」・「天地明察」・「大奥 ～永遠～」・「るろうに剣心・大奥」・「嗚う伊右衛門」・「どら平太」などがあり、最近のものでは朝ドラ「ばけばけ」などで使われた様だ。「ばけばけ」では、松野トキ(主演・高石あかり)がヘブン(トミー・バストウ)後の小泉八雲から頂いた給金の一部を雨清水三之丞(板垣李光人;松野家の主人筋に当たる親戚でトキに取っての実の兄)に渡す橋の上の場面がここだった。シーンの記憶はあったものの三井寺とは露知らずである。この他にも、幾つかの場面に登場している様で、今後参道で会話する場面があれば、注意したいものだ。

## 〈御朱印〉

- ・金堂 / 釈迦堂 / 微妙寺(びみょうじ)
- ・観音霊場観音堂 : 西国三十三所第14番札所
- ・水観寺 : 西国薬師四十九霊場 第48番札所

## 〈食事〉

・本寿院 ながら茶坊

上煎茶	600円
ほうじ茶	600円
コーヒー	600円
葛餅お飲み物セット	1,000円

### お休み処 本寿院 ながら茶房

営業時間:10:00~16:30(16:00ラストオーダー)

定休日:木曜日

座席数:32席

TEL:077-522-2238

FAX:077-522-2221

Email:info@shiga-miidera.or.jp



・本家力軒(ほんけちからけん)

境内にある店。弁慶のちからもちが定番。

求肥餅の上にすつー筋だけ「すりみつ」お砂糖と水飴だ

その上に抹茶ときな粉と和三盆抹茶の苦味にすりみつのシャリとした歯触りのもの。弁慶力餅2本 ほうじ茶つき 360円とクチコミに書いてあるが、2025/11の情報なので、ひょっとすると値上がりしているかも。



〈みどころ〉

入山料  
大人:600円



観音堂展望台



唐院探題燈籠



一切経蔵 内部



金堂

かんのんどうてんぼうだい  
**A 観音堂展望台**  
 観音堂は西国三十三所観音霊場の第14番札所として知られている。観音堂からさらに階段を上った展望台は眼下に琵琶湖疏水が走り、琵琶湖と湖南アルプスの山々が見渡せる。

じょうまうざか  
**B 浄妙坂**  
 総門から観音堂につながる174段の石段。この近辺は簡井と呼ばれ、京都紙園祭の山鉾「浄妙山」で知られる三井寺の僧兵・浄妙房の住房跡と伝えられている。

かんだいもんぜん  
**C 勸学院門前**  
 勸学院《国宝》は学問所として1239年に創立された。その後、火災や豊臣秀吉の破却にあうが1600年に再建される。桃山時代における書院造の代表的建築で知られ、狩野光信の代表作の障壁画が部屋を飾っている。

かんだいもんぜん  
**D 勸学院横辻**  
 横辻の美しく組まれた石垣は、勸学院の清楚な建築と相まって整然とした風情を伝えている。

こんどう  
**E 金堂から村雲橋**  
 村雲橋は、唐で学ばれた三井寺の宗祖・智証大師がこの橋の上で長安の青龍寺の火災を感知し、真言をととなえたところ、雲が湧き出て西方の空に飛び去り火災を鎮めたと伝わっている。

とういんたんだいとうろう  
**F 唐院探題燈籠**  
 三井寺のなかで最も重要な建造物のある唐院へと向う参道で、石段の脇に石造燈籠が配されており、聖域にふさわしい静寂な趣きがある。

ちやういちごまどう  
**G 長日護摩堂**  
 後水尾天皇の本願により寛文6年(1660)に建立された。

さんじゅうのとうよこばし  
**H 三重塔横橋**  
 三重塔《重要文化財》は豊臣秀吉によって伏見城に移築され、徳川家康が三井寺に寄進したもの。釈迦三尊像を安置している。

いっさいきやうぞう  
**I 一切経蔵《重要文化財》**  
 一切経(お経を集大成したもの)を安置するためのお堂。内部には回転式の巨大な八角形の輪蔵が備えられている。毛利輝元によって寄進された。室町初期の建築。

こんどう  
**J 金堂《国宝》**  
 弥勒菩薩(天智天皇の念持仏)を本尊とする三井寺の本堂。壬申の乱で自害した大友皇子の子、与太王が創建。広大な境内にひととき大きな威容を誇る。豊臣秀吉の正室北政所によって1599年に再建、寄進された。

こうじやういんもんぜん  
**K 光浄院門前**  
 光浄院《国宝》は、勸学院とともに代表的な桃山建築の一つ。内部の障壁画及び模絵は、京狩野派の祖 狩野山楽の筆による。南面に広がる庭園は、名勝史跡に指定されている。